

川田食品株式会社

地場産品でジェラート開発
小ロット特化OEMで市場開拓

本事業における成果

- 機械導入により生産性、品質向上を実現
- 無償の試作品開発と供与により販路拡大
- 県内外で新規受注獲得

会社データ

- 創 業 大正10年（1921年）
- 取 締 役 川田 和弘
- 所 在 地 氷見市柳田1212
- TEL/FAX TEL:0766-91-2721
FAX:0766-91-3076
- E-mail info@himi-gerato.com
- U R L http://himi-gerato.com/
- 資 本 金 1,000万円
- 従業員数 20人（パート含む）
- 取扱製品 アイスcream、ジェラート（店舗販売用、業務用、OEM用）の製造・販売。アイスcream卸販売。



1 会社の概要

酒、食料品一般雑貨の小売業「川田商店」として大正10年に創業し、昭和22年にアイスクリームの製造、卸販売部門を設立。その後、オリジナルジェラート製造に着手、昭和62年に富山県初のジェラートショップを富山市のSC内に出店した。平成10年から地域の素材を生かした「ご当地ジェラート」の製造を開始。現在は地産地消の「氷見ジェラート」製造・販売と、業務用OEM事業を展開している。直営店は2店舗（高岡市、氷見市）。オンラインショッピングモール「楽天市場」にも出店する。OEM製造では、小ロット100個から受注しており、祭りやイベント用、地域振興の特産品づくりで高い引き合いがある。

2 補助金事業の内容

近年、自治体や企業が独自性をPRするため、特産品などを使った商品づくりが注目されている。当社は独自性という需要の中でも、



地元の特産品「りんご」を使ったOEM商品

特にジェラートの製造に着目し、小ロットから地場の特産品などを使ったオリジナルジェラートを開発。大手には真似できない地域の特産品づくりという新たな市場を開拓、地域発展寄与を目指した。

補助金事業では、平成26年9月に、機械5台（ジェラート原材料製造機、ショックフリーザー（急速冷凍機）、充填機、カップシーラー、ドライアイス製造機）を新規導入し、生産性、品質、衛生面の向上を図った。また、OEM事業を積極展開するため、今回の事業では、試作品製作料金を受け取らず、依頼側の原材料費負担だけで試作品を開発・製造。検証を行うための試作品の無償供与を行った。



補助金で導入した「原材料製造機」

3 補助金事業の成果

約1年の無償試作で、新規20社から引き合いがあり、約110種類の試作品を製造した。これまでは地元を中心に県内、北陸の企業や団体との取引であったものが、関西、中国、九州地方にまで広がった。平成27年9月の生産転用後、試作を行ったうちの5社（9月現在）から受注、製造に入っている。これまで特産品を使ったジェラートの商品化を望んでいたが、ロット数や経費の面でこれまで着手に踏みとどまっていた企業や団体があることが判明し、受注は今後もある見通しである。

また、設備投資を行った結果、一度に製造できるジェラートの生産量が60ℓから120ℓと倍に、手詰めで1日400～500個だったものが、導入された充填機によって1,000個近くまで製造可能になった。これにより地元食材を使った学校給食用や大手のOEM用にも対応できるようになった。ショックフリーザー（急速冷凍機）の導入では、遠方への注文対応や即日出荷を可能にした。これらの設備投資で、食品の安全、美味しさを守るだけでなく、作業効率の向上や廃棄ロス削減を図ることができた。さらに人件費のコストダウン



これまで手作業で行っていたカップ詰め作業も、今後大きく変わることが予想される

や、製造にあてていた時間を商品開発に費やすこともできる。

4 今後の展望

当社では手作り感を大切に、小ロットでも対応する方針だが、今回の設備投資で生産力が上がり、大量生産も可能となった。今後は、本格始動したOEM事業を柱に据え、初年度（平成28年度中）は、受注150件・売上3,000万円、翌年度はさらに受注200件・売上4,000万円を目指したい。今回の補助事業における試作に関しては、営業を行っておらず口コミだけで広がった数であり、今後はさらなる販路開拓のため、インターネット等でPRも

図りたい。

現在の課題は、夏の繁忙期に注文・生産依頼が集中することにある。繁忙期は生産のみを行い、冬から春にかけて商品開発、試作品を完成させておくということも必要となる。

今回の補助金事業による試作品開発で培った製造ノウハウを生かし、特産品を使った商品開発の相談業務にも積極的展開する。最終的にはキズものなど、流通経路にのらない農産物を活用した商品開発で、農工商連携を図り、地域の特産品づくりにも貢献していきたい。



導入されたショックフリーザー（右）や充填機、カップシーラー



直営店「Vivaceひみ番屋街店」。消費者の声やニーズを商品開発にも反映している